

# 令和5年度サケ来遊状況及び令和6年度サケ来遊予測

令和6年8月16日  
宮城県水産技術総合センター

## 1 令和5(2023)年度サケ来遊状況

○ 令和5年度は河川捕獲が4,966尾、沿岸漁獲が4,684尾で来遊数は合計で9,650尾(対前年度比21%)となりました。予測に対する実績値は予測を大きく下回る33%となりました。沿岸漁獲数については、全国では1,922万尾<sup>※1</sup>(対前年度比65%)となりました。

※1 国立研究開発法人水産研究・教育機構(以下、水研機構)調べ

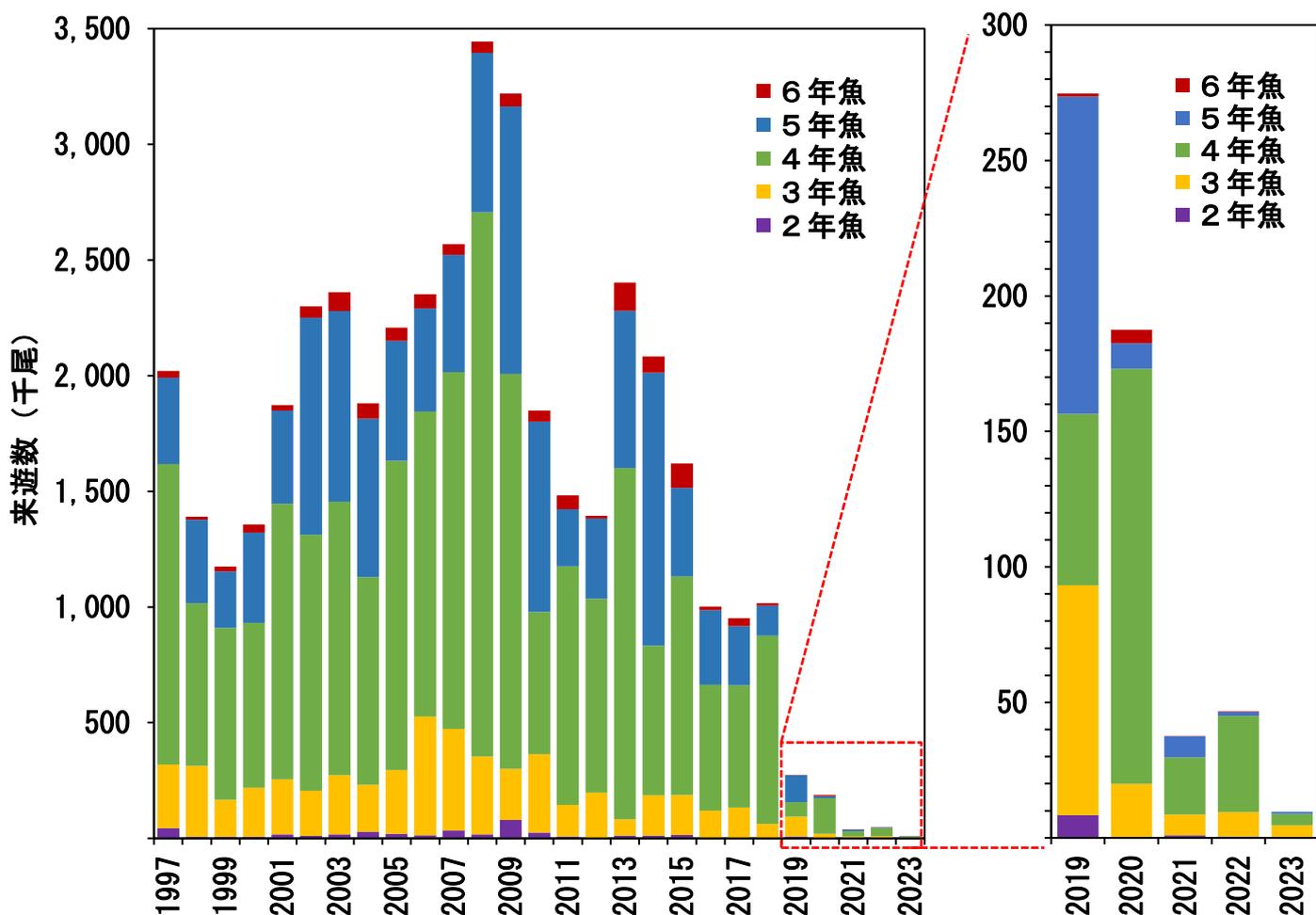


図1 宮城県への秋サケ来遊数(年齢別)の推移

○ 本県へ来遊したサケの年齢別の内訳では、3年魚が4,618尾(対前年度比51%)、次いで4年魚が4,179尾(同12%)、5年魚が809尾(同19%)、2年魚が44尾(同10%)となりました。

例年、4年魚の割合が高い傾向にありますが、令和5年度は、3年魚の割合が全体の48%、次に4年魚の割合が全体の43%を占めており、3年魚の割合が高くなりました。

## 2 令和6(2024)年度サケ来遊予測

令和6年度来遊予測値：1万尾

【シブリング法による予測値、7千尾～1万6千尾の範囲となる確率が約80%】

令和5年度来遊実績値：9,650尾（来遊予測値：2万9千尾）

シブリング法により来遊数を予測しました。この手法では、前年の2年魚の来遊数から今年の3年魚の来遊数を、前年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、前年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します。

令和6年度の予測値は、令和5年度の実績値より低い値となっています。令和5年度の実績値も等しく低水準であり、今後も同様の傾向が継続することが考えられます。資源の回復に向けて、引き続き来遊状況を注視するとともに、計画的な種卵確保と健苗の育成が重要と考えられます。

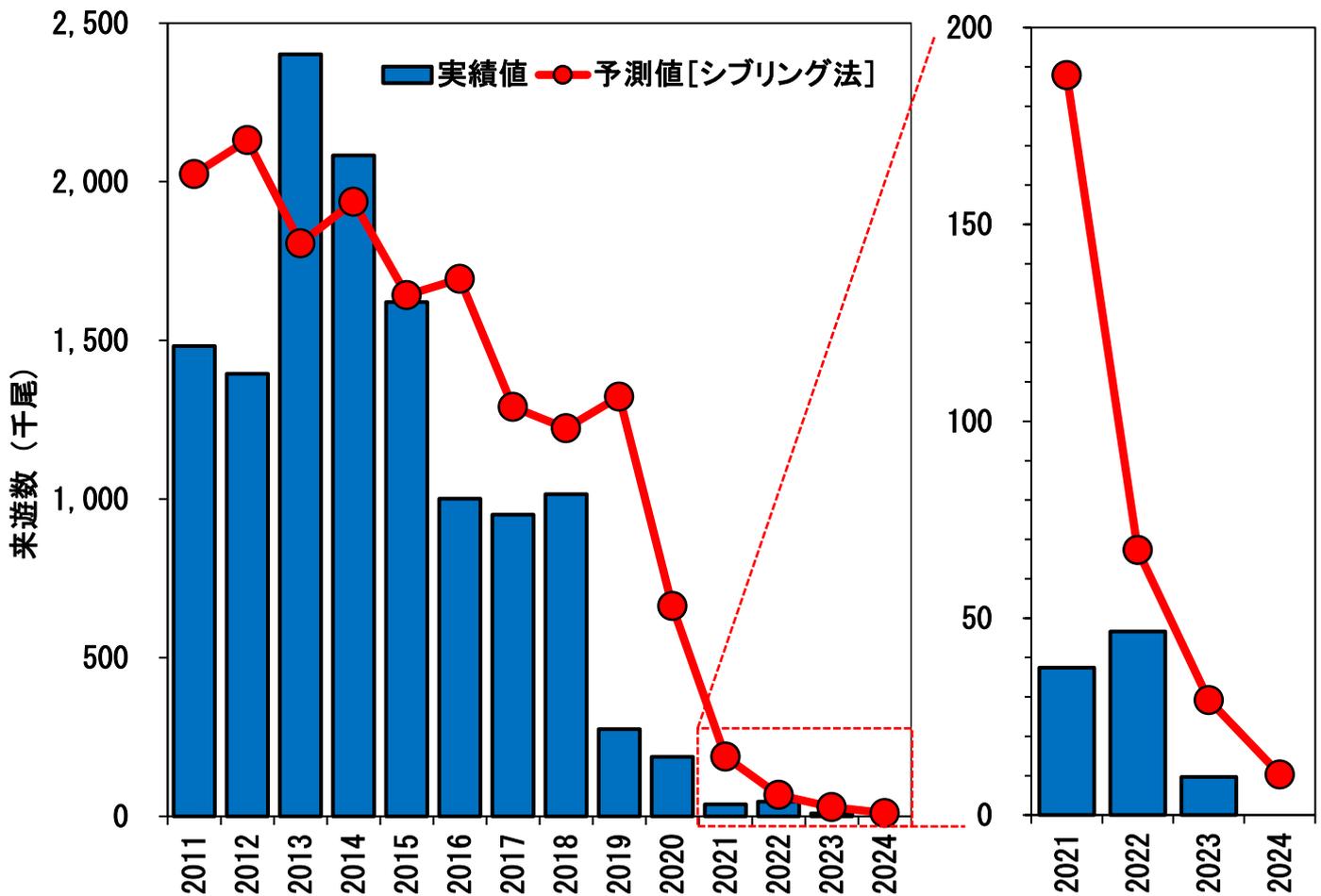


図2 シブリング法による来遊予測値と実測値

- 本県のサケ来遊は秋季の沿岸海況にも影響を受けます。海況の予測については、水研機構水産資源研究所が発表する情報(下記)を参考にしてください。